

月刊

2022 3

公論

世界の視点で
情報を発信する
総合誌

**「谷深ければ、山高し」
岸田首相は世界経済の回復に寄与すべし**

提言 本誌主幹 **大中 吉一**

連載 **政界展望** ジャーナリスト **鈴木 哲夫氏**

新型コロナから外交安全保障まで 岸田首相の「聞く力」の真価。

特別寄稿 (株)人間と科学の研究所 所長 **飛岡 健氏**

2021年の総括から2022年の展望へ(後編)

TOPインタビュー⑱ 株式会社ダイセル 代表取締役社長 **小河 義美氏**

逆境の時こそ、改革の根っこがミエル ～サプライチェーンを素材から構築する～

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー
取締役マーケティングディレクター

鈴木 秀樹氏

リレー
対談

関彰商事株式会社
代表取締役社長

関 正樹氏



地元への熱意と
父の姿を見て
学んだ帝王学



目標は「大切な存在」だと気づいてもらえる会社の継続

3

提言

「谷深ければ、山高し」
岸田首相は世界経済の回復に寄与すべし

本誌主幹 大中吉一

リレー対談

地元への熱意と父の姿を見て学んだ帝王学

目標は「大切な存在」だと気づいてもらえる会社の継続

関 正樹氏

関商事株式会社
代表取締役社長

VS

鈴木 秀樹氏

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー
取締役マーケティングディレクター

連載◎政界展望

新型コロナウイルスから外交安全保障まで
岸田首相の「聞く力」の真価。

ジャーナリスト 鈴木哲夫氏

TOPインタビュー⑱

逆境の時こそ、改革の根っこがミエル
↳ サプライチェーンを素材から構築する

株式会社ダイセル
代表取締役社長 小河義美氏

特別寄稿

2021年の総括から2022年の展望へ(後編)

(株)人間と科学の研究所 所長 飛岡 健氏

3 提言

6 リレー対談

18 《時論公論》

I 米バイデン政権発足から1年

ジャーナリスト 泉 洋海

20 II 混乱するコロナ禍対策

見誤ったオミクロン株
経済ジャーナリスト 八雲豊彦

22 III 内外激動

↳ 新冷戦にコロナ大爆発
政治アナリスト/元杏林大学教授 豊島典雄

24 IV 電動アシストで自転車は高速化、

電動キックボードは免許不要に
ジャーナリスト 三木寛郎

26 連載◎政界展望

新型コロナウイルスから外交安全保障まで
岸田首相の「聞く力」の真価。
ジャーナリスト 鈴木哲夫

32 連載◎欧州からニッポンを見る(318)

誰がやらなくても自分がやる人材が求められている
在仏コラムニスト 安部雅延

34 連載◎医療最前線 長尾和宏の「生」と「死」

「オミクロンシフト」の提案
「記録映像 ワクチン後遺症(八開) 医学博士 長尾和宏

36 シリーズ TOPインタビュー⑱

逆境の時こそ、改革の根っこがミエル
サプライチェーンを素材から構築する
株式会社ダイセル 代表取締役社長 小河 義美

40

列島いんふおめいしょんPLUS

列島いんふおめいしょんPLUS 地域企業特集
第3回 地域のポテンシャルを幅広くいかす「地域商社」

地域の技術や商材を発掘・支援し、
総合的な地域創生事業を推進。 三重県松阪市

50

連載◎防災の世界を解剖する(55)

災害対策に求められる人材確保
↳ 企業のBCPに業務継続計画の視点を
一般社団法人ADI災害研究所 理事長 伊永 勉

54

連載◎未病漢方事始め⑤

現代における未病についての話
修琴堂大塚医院 渡辺賢治

56

特別寄稿

2021年の総括から2022年の展望へ(後編)
(株)人間と科学の研究所所長 飛岡 健

74

新刊案内「読んでみました」

柳良平著「CFOPオリシ」
財務・非財務戦略による価値創造(第2版)

78

連載◎グリーン交感録

『月刊公論』創刊55年。恩人たちとの思い出ラウンド
本誌主幹 大中吉一

『月刊公論』電子版がスタート。
下記QRコードをご参照ください。
【QR】
<https://www.kohronarc.jp/>





未病漢方事始め

—第5回—

現代における未病についての話

修琴堂大塚医院 渡辺賢治

さて、前回は伝統医療における未病の捉え方について書きました。2000年前の話など持ち出されて古臭いと思われた方もいらっしゃると思います。しかし、2000年前の人間も現代人も本質的には全く変わっていません。いつの時代も「今時の若者は」というのは年配者の常套句ですが、前漢の『黄帝内经素問』にも「昔の人は100歳を超えても動作が衰えなかったのに、今の人たちは50歳くらいで動作が衰えてしまう」という話が出てきます。その理由として「昔の人は道理をわきまえていて、飲食に節度があり、労働と休息も規律があり、むやみに働き過ぎることがなかったの、肉体と精神がともに健やかで生きるべき歳まで元気で過ごせた」というのです。

現代の科学で分かっているのは、人間の遺伝子にはテロメアという繰り返しのDNA配列がついていて、これが細胞分裂の度に短縮します。それとともに細胞老化が進行します。まるで寿命のろうそくのようなものです。従って、不老不死はなく、そこから推測する最長寿命は120歳です。ギネス記録に残っている史上最高齢の世界記録は、フランス人女性が持つ122歳ですから、大道理論通りですね。

さて、話を戻して、現代における未病についての話をします。

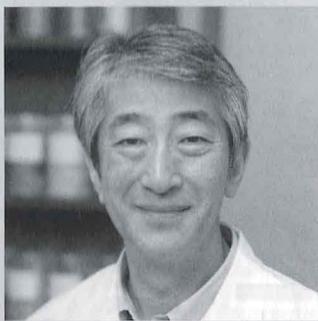
心筋梗塞の始まりはいつから？
一般的に病気は、症状が出た時に「ああ、私もついに病気になった」と思うのが普通です。しかし、本当に症状が出た時が病気の始まりでしょうか？

心筋梗塞は冠動脈という心臓に栄養を送っている血管が詰まることによっても起こります。これは動脈硬化が進行した結果なのですが、割合と太い血管です。大体の場合、その前にもっと細い血管が障害されていることがよくあります。それが分かるのが、腎臓の機能評価です。何年か前から健康診断の結果にeGFRという項目を目にするようになったと思います。GFRとは糸球体濾過量のことです。糸球体は血液を濾過して尿をつくる場所です。腎臓が左右2つあるのはご存知だと思いますが、糸球体は片方の腎臓に100万個存在しますので、左右で200万個の糸球体があります。ここ

で血液を濾過して、尿を作っているのですが、非常に小さな器官で、ここに毛細血管が入り込んでいます。本来であれば正確に糸球体濾過量を計測するには、クレアチニンやイヌリンという物質が、ある一定時間の尿の中にとどのくらい排泄され、どのくらい血液の中に残っているかを測定して、濾過機能を評価します。しかし24時間もしくは2時間、尿を貯めなくてはならないので大変です。そこで、血清のクレアチニン値から、年齢・性別・体格などを考慮して簡便に導き出したものがeGFRです。eGFRはestimated(推測した)の意味です。

eGFRの値が60以上あり、蛋白尿がなければ正常です。そうした目で再度健康診断の結果を見直してください。60未満だったら「慢性腎臓病」と

未病漢方事始め



わたなべけんじ 渡辺賢治

慶應義塾大学医学部卒。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室に国内留学後、米国スタンフォード大学遺伝学教室に留学。帰国後北里研究所(現北里大学)東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授を経て、1931年に開設された漢方専門医院、修琴堂大塚医院院長に就任。横浜薬科大学特別招聘教授、慶應義塾大学医学部漢方医学センター客員教授、奈良県顧問、神奈川県顧問、漢方産業化推進研究会代表理事、日本臨床漢方医会副理事長、WHO医学科学諮問委員、WHO伝統医学分類委員会共同議長等を兼ねる。1900年以來、西洋医学のみだった国際疾病分類の、第11改訂(2019年)に、伝統医療が初めて取り入れられたが、2005年からプロジェクトの共同議長として長年尽力。主な著書に『漢方医学 同病異治の哲学』(講談社学術文庫)、『未病図鑑』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『漢方で感染症からカラダを守る』(ブクマン社)など。



渡辺賢治先生の近著「未病図鑑」

いう病名がつかえます。しかし慢性腎臓病と診断されても、特段に症状があるわけではないので軽視されがちです。米国腎臓統計システムでは、慢性腎臓病が、将来的に透析が必要となる危険度が増すばかりでなく、狭心症、心筋梗塞、心不全になる危険性が高まることを、データを基に警鐘を鳴らしています。

その過程においてはあまり症状がないので、危機感が湧きにくいのです。

多くの病気は症状が出るまでに長い時間を要する
こうした目で見ると症状が出たときが、病気の始まりではないことになり。癌もそうです。CTやMRIで癌が見つかるのは1cmの大きさになってからですが、この時点で癌細胞は既に10億個にも達しています。癌の始まりは1つの細胞の遺伝子変異からであり、1つの癌細胞は細胞分裂で2つにしかありませんので、10億個にまで増殖するのに長い時間を要します。進行が早い臓臓癌ですら、発見までに10年

を要するとされています。

いきなり癌の診断が下るようには見えません。このように症状が出現するまでの長い時間、体の中で静かに病気が進行しています。この期間がまさに未病なのです。認知症についても同様で、頭がクリアな50代以上の方の脳内では、ひそかにアミロイドが溜まりつつあるかもしれません。

誰でも心筋梗塞や癌、認知症にはなりたくないと思っています。しかし、今この瞬間にも、これを読んでいるあなたの体の中で、静かに病気が進行している可能性があります。では、いったいどうすればその進行を防ぐことができるのでしょうか？

それを次号から説明していきたいと思えます。